National center of Incident readiness and Strategy for Cybersecurity

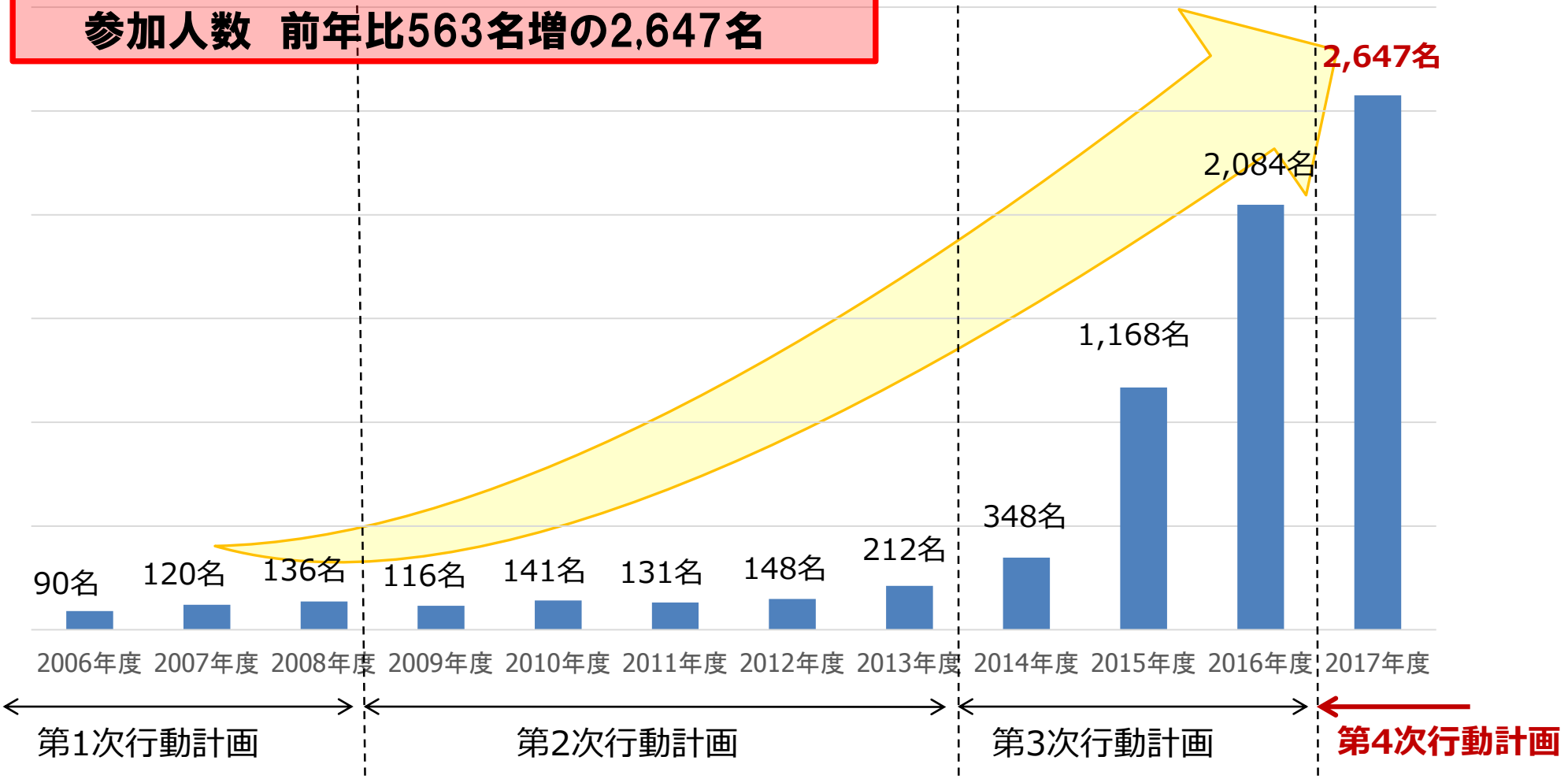
２０１７年度「分野横断的演習」について

2018年3月20日

内閣官房　内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)

分野横断的演習の参加者数の推移

■過去最大規模の開催
参加人数　前年比563名増の2,647名



演習開催概要

日　時：２０１７年１２月１３日（水）１２：３０～１７：００
　　（見学説明会　１４：１０～１６：００）

場　所：東京会場、大阪会場、福岡会場、自職場

演習内容：

○第１部　各分野において重要インフラサービスへの影響が小さい障害が発生したことを想定し、分野間・官民間での連携を図ることによる情報共有体制の実効性を検証
（ランサムウェアによる攻撃）

○第２部　重要インフラサービスへ影響が生じる障害が発生し、事業継続が脅かされる事態を想定した、事業継続計画の発動方法やその手順を確認するなど、各社の対応を検証
（ＤＤｏＳ攻撃、ネットワーク機器のマルウェア感染、制御システムのマルウェア感染）

演習における新たな取り組み

①演習シナリオのより一層の充実
・第4次行動計画における新しい概念として「機能保証」、「サービス維持レベル」を踏まえたシナリオ設計

②情報伝達の有効性の検証
・他事業者との横連携
・セキュリティ関係機関からの情報収集

③サブコントローラーが経営層の役割を担い、プレイヤーのインシデント対応状況等を評価

④オリパラ大会を見据えた情報共有体制の確認（一部事業者のみ）

意見交換会

意見交換会の開催概要

日　時：２０１８年1月２４日（水）　１４：００～１７：３０

場　所：東京会場、大阪会場、福岡会場

目　的：
- 演習当日に得た気づき、改善に向けた取組み、困っていること、工夫していること等について、他の参加者事業者等と意見交換を実施することにより、今後の取組みに活用
- サイバーセキュリティの担当者相互の繋がり（顔の見える関係）を確保し、平素より情報交換が行える関係性を構築

意見交換会における新たな取り組み

①分野の関連性を考慮した座席配置
②意見交換テーマを複数（１０テーマ）を提示し、ニーズに応じたテーマの選択
- 現状の問題点・今後の課題
- 有効な情報連携の手法について（匿名化による情報の集約　等）
- 各組織のサイバーセキュリティに対する考え方・組織体制について
- サイバーセキュリティに対する経営層の関与について
- 演習を通じて、規則・基準・組織体制等で改善の必要性を感じたこと
- 事業継続計画やコンティプラン（緊急時対応計画）の発動・解除のための連絡体制、意思決定の仕組み、対応について

③意見交換の進捗を可視化するため、模造紙に意見交換のやりとりの内容等を記録

テキストブックの作成

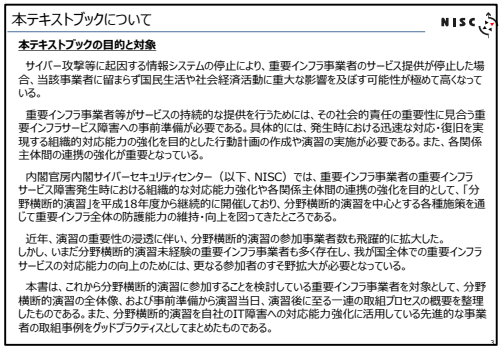
目的

- ✓ これから分野横断的演習に参加することを検討している重要インフラ事業者を対象として、分野横断的演習の全体像、および事前準備から演習当日、演習後に至る一連の取組みを説明する。
- ✓ 分野横断的演習を自社における対応能力強化に積極的に活用している事業者の取組事例を「グッドプラクティス」として提示する。

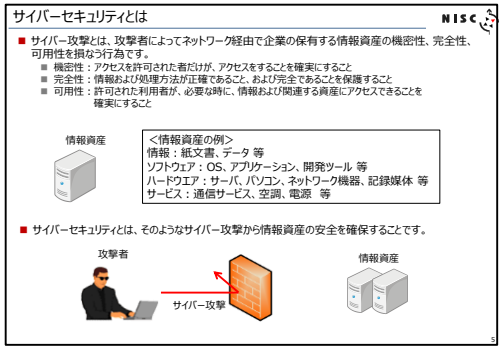
テキストブックの主な内容

- テキストブックの目的
- サイバーセキュリティの重要性
- 演習参加に向けた事前準備
- プレイヤー・サブコントローラーが果たすべき役割
- 演習シナリオの考え方
- 演習当日の実施イメージ
- 演習効果を向上させるための留意事項
（規程類見直し、経営層参加）
- グッドプラクティス
  - ・複数部門により構成されたCSIRTの有効性について検証を行った事例
  - ・経営層が直接的に参画するセキュリティ確保のための体制を構築した事例

など12事例掲載

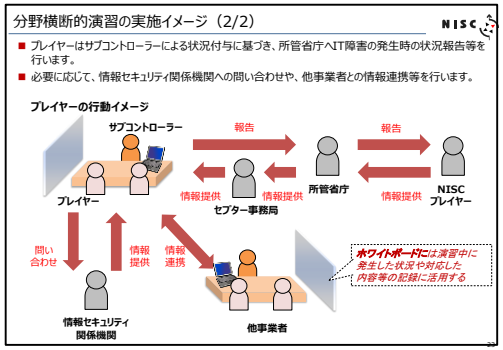


テキストブックの目的



サイバーインシデントとは

分野横断的演習とは



分野横断的演習の概要

2018年度に向けた取り組み

- より実践的な演習機会の提供
  - 実時間に近い時間軸の検討
  - 実環境に即したサブシナリオの検討
    （サブコントローラーへの支援の充実）
  - オリパラへの対応
  - 国際・地域的な視点の考慮

- 自職場参加の推進
  - 自職場参加者への説明の充実
  - 自職場参加者を意識したシナリオの準備
  - 経営層への理解浸透

- 重要インフラ全体での防護能力の底上げ
  - 参加が少ない業界の参加推進
    （場所、実施日程等の検討）
  - セプター事務局向け説明の充実
  - 第4次行動計画に基づく情報共有体制に関する理解の増進

- 情報共有体制の実効性の向上
  - 「普段やっていることを検証する」だけでなく「(必ずしも普段できていなくても)やるべきことをしかるべく実行するためのきっかけづくりとなる」演習へ
  - 事業者等が使用するツール等を踏まえた演習の検討